

令和3年度 全国キャリア教育・就職ガイダンス

外国人留学生のキャリア教育・就職支援についてのセッション

- ・テーマ：「元留学生による就職活動体験談」
 - ・講演者：熊本大学 薬学教育部博士課程修了生 劉 宸江（リュウ シンコウ）氏
-

皆さんこんにちは。

私は、熊本大学薬学教育部博士3年の劉 宸江です。出身は中国山西省です。

製薬会社から内定を獲得し2021年4月から勤務する予定です。

質問1. 日本での就職活動の活動内容を教えてください。

エントリーした企業は14社で面接を受けた企業は3社、内定は1社からいただきました。

質問2. 就職活動の準備はいつからどのように行いましたか？

修士1年の時、熊本大学で実施している留学生就職促進プログラムに参加し、就職ガイダンス等で日本での就職活動のスケジュールや流れなどを勉強し始めました。

修士2年の際、自分の研究歴が浅いと認識し、博士課程に進学することにしました。

その後博士2年の9月から就職活動を開始しました。

就職活動の準備にあたって、徹底的な自己分析が一番重要だとよく言われています。しかし、どこまで分析すれば徹底的になるのかは、私にとって就活の最初の時点では一番の悩みでした。その解決策として、私はまず、今までの経歴を思い出し順番に箇条書きしました。その後、一個一個の経歴をしっかりと分析し、当時の自分の動機やその行動を選択する理由を導き出しました。最後にそれらをまとめると、自分の強みと弱みになります。留学生の場合は、留学の経歴を中心にもたくさん書けますので、このやり方でまとめてきたものを、エントリーシートの作成や面接の準備の際に活用し、大変重宝しました。

また、私は学会にて年に4回以上を発表する目標を立て、実行していました。その他に、私はボランティア活動やその他の社会活動に積極的に参加することを心がけていました。これらの行動は、就職活動に大変役立ちました。

質問3. 就職活動で一番苦労したことは何ですか？

エントリーシートの作成が難しいと感じました。普段文章を作成する際に使用する日本語は、口語表現が多いため、でき上がった文章は魅力がないとよく感じられました。文章の魅力を上げるため、母国語の単語や言葉を翻訳ツールで翻訳しても適切な表現が出てこないため、文章の意味がわかりにくかったり、違う意味になったりすることがあり苦労しました。

質問 4. 大学の支援や授業等で利用したサービスと、それが役に立った点について教えてください。

熊本大学で実施している留学生就職促進プログラムに参加しました。そのプログラムでは、日本の就職活動の流れや、スケジュールやマナーを教えてくれる以外に、エントリーシートを確認してくれることが一番役立ちました。留学生就職促進プログラムの先生は私が作成した文章の日本語を修正してくれる一方、私とディスカッションし、より魅力的な文章の表現を多く教えてくれました。それらの表現法や考え方は面接の際にも役立ちました。

質問 5. 内定が獲得できた成功の要因は何だと思いますか？

私は、内定を獲得できた要因は、早めに自分の進路を決めたことだと思います。私は、熊本大学に入学する前に、日本で就職したいと目標を立てました。その際、日本の企業が来日前の私のキャリアを評価することは難しいと感じ、日本で実績を積むことの大切さを認識しました。そこで、専門分野の学会や勉強会に多く参加しました。また、普段の勉強が忙しくてもボランティア活動や社会活動に多く参加しました。早めに目標を立てることによって、これらの活動に参加でき、同時に日本の企業の様子、日本の社会人の日常などの情報も多く獲得できるため、自分の就職の際に役立ちました。

質問 6. 大学で就職活動に対してあったらよい支援はどんなものですか？

研究・技術職において、学生と会社がお互いにアピールする会やイベントがあると、より良いと考えます。博士課程の学生、特に理系、医薬系の学生の就職はほとんど研究職や技術職に特化しています。しかし、これら博士学生向けの合同説明会は少ないと感じました。また、医学、薬学あるいは生物学の博士の就職活動は一般的な就職活動より早めに始まるため、我々博士学生の就職活動の情報収集は非常に難しいと感じました。もし博士学生の就職活動のスケジュールに合わせた、日本人、外国人問わず、より専門的な企業合同説明会・交流会が身近に開催できれば、大変助かると思います。

(了)